

平成20年度事業計画

1. 大学生への奨学金支給関連事業

(1) 大学生への奨学金貸与

平成20年度の奨学生を次のとおり採用する。

- ① 対 象 : 大学生(学業・人物ともに優秀かつ健康であって学資の支弁が困難と認められる者;学業成績5段階評価で3.5以上、家計支持者の年収1,038万円未満<給与所得以外は所得552万円未満>の者)、30歳未満の者。
 - ② 貸 与 金 額 : 月額 40,000 円
 - ③ 採 用 人 員 : 150 名程度
 - ④ 採 用 方 法 : 4月1日付で、募集案内を希望する全国の大学約450校に実施要項等を配布する。応募はすべて大学経由とするが、平成18年度より応募願書のインターネット登録を義務付けた。採用者は選考委員会での選考を経て、理事長が決定する。
- 20年度支出予算:(奨学金貸与支出) 217,920,000 円
(19年度支出予算:213,600,000 円)

(2) 大学生への奨学金給付(高校時予約採用)〈新規〉

平成21年度の大学入学予定者に対して、奨学金給付の予約採用を下記の通り行う。平成20年度は選考作業のみを行う。

- ① 対 象 : 当財団が指定する公立高等学校の3年生で、在学学校長の推薦があった者。成績優秀者あるいは優れた社会貢献活動等の実践者、かつ学資の援助が必要と認められる者で、当財団の指定大学の合格を条件とする。原則として理工学系、医学・薬学系を除く。
 - ② 給 付 金 額 : 月額 50,000 円(期間は大学在学中の最長4年間)
 - ③ 採 用 人 員 : 50 名程度。給付者総数は22年度100名、23年度150名、24年度以降200名となる。
 - ④ 採 用 方 法 : 平成20年5月から募集活動開始、9月に予約採用決定。大学入学後に奨学金給付。指定大学不合格の場合は予約を取消す。
 - ⑤ 奨学金給付者は、各高等学校で1名選ばれた候補者の中から、事務局による面接、奨学生選考委員会での選考を経て理事長が決定する。
- 20年度支出予算:(選考関連費) 4,000,000 円

*21年度以降は奨学金給付支出を含み下記の予算となる。

21年度:34,000,000 円(内奨学金30,000,000 円;@5万×12ヶ月×50名)

22年度:64,000,000 円(同 60,000,000 円;@5万×12ヶ月×100名)

23年度：94,000,000円（同 90,000,000円；@5万×12ヶ月×150名）

注；この給付奨学制度導入に伴い、平成21年度より前記(1)奨学金貸与は年度採用を100名程度に減員する予定である。

(3) 留学奨励金の給付

平成20年度の留学奨励金給付者を次のとおり選考する。

- ① 対 象 : 電通育英会の奨学生で留学が内定している者
- ② 給 付 金 額 : 100万円を限度に渡航費・学校納付金・寮(アパート)費を支給
- ③ 採 用 人 員 : 10名以内
- ④ 募 集 時 期 : 平成20年6月及び平成21年1月

電通育英会奨学生の中から募集し、奨学生選考委員会での選考、事務局面接を経て、理事長が決定する。

- 20年度支出予算：(留学奨励金支出) 6,300,000円
(19年度支出予算：6,300,000円)

(4) 「成績優秀による奨学金返還免除者」の選考

平成19年度と同様、電通育英会奨学生(卒業予定者)の中から、成績優秀者およびスポーツ・文化領域等において優秀な成績を収めた者を選び、奨学金の返還免除の特典を与える。

- ① 対 象 : 卒業予定の電通育英会奨学生で成績優秀者等、但し2年間以上奨学金の貸与を受けた者
- ② 返 還 免 除 金 額 : 貸与した奨学金全額(卒業時に返還免除)
- ③ 採 用 人 員 : 20名程度

成績優秀等による奨学金返還免除者は、事務局面接、奨学生選考委員会の選考を経て、理事長が決定する。

- 20年度支出予算：(返還免除費用) 37,000,000円*固定資産減少分
(19年度支出予算：37,000,000円)

2. 大学院生への奨学金給付関連事業

平成18年度より開始した大学院生を対象に奨学金を給付する「大学院給付奨学生(国内)制度」および「大学院給付留学奨学生制度」を継続する。

(1) 大学院給付奨学生への奨学金給付

- ① 対 象 : 1)電通育英会が指定する大学院(修士課程)の1年生で、在学学校長の推薦があった者。応募時年令30才未満。
2)原則として社会科学・人文科学を専攻する者
3)成績優秀で、かつ学費の援助が必要と認められる者

② 給付金額・期間 : 月額 80,000 円、給付期間は2年以内とする

③ 採用人員 : 27名程度

指定校で選ばれた候補者の中から、事務局面接、選考委員会の選考を経て理事長が決定する。給付人数は平成19年度採用者22名を加え49名となる予定。

- 20年度支出予算 : (大学院生給付支出) 47,040,000 円
(19年度支出予算 : 48,960,000 円)

(2) 大学院給付留学奨学生への奨学金給付

- ① 対象 : 1) 電通育英会が指定する大学院(修士・博士課程)に在籍する者で、在学学校長の推薦があった者。応募時年齢 35 才未満。
2) 日本以外の国籍をもつ者
3) 原則として社会科学・人文科学を専攻する者
4) 成績優秀で、かつ学費の援助が必要と認められる者

② 給付金額・期間 : 月額 100,000 円、給付期間は2年以内とする

③ 採用人員 : 14名程度

指定校で選ばれた候補者の中から、事務局面接、選考委員会の選考を経て理事長が決定する。給付人数は平成19年度採用者12名を加え26名となる予定。

- 20年度支出予算 : (留学生給付支出) 31,200,000 円
(19年度支出予算 : 28,800,000 円)

3. 奨学生の研修・懇親会の実施

(1) 大学奨学生に対する「奨学生の集い」の実施

奨学生の研修・コミュニケーション促進のため、また奨学生と財団役員・選考委員・事務局員との懇親を目的に「奨学生の集い」を、東京・大阪の2地区で開催する(平成19年度まで実施していた九州地区は地区居住の奨学生が減少しているため東阪2地区に集約する)。開催時期は11月上旬を予定。

「奨学生の集い」では学生の社会的視野を広げることを目的に、各界で活躍する講師を招き講演会を開いている。平成19年度の講師は丸善(株)社長の小城武彦氏(東京会場)、脳科学者の茂木健一郎氏(大阪会場)、(株)ワークライフバランス社長の小室淑恵氏(福岡会場)の3名であった。平成20年度も従来同様、大学生の夢や問題意識に直接訴えるテーマと講師を選びたい。

- 20年度支出予算 : (奨学生の集い運営費) 9,000,000 円
(19年度支出予算 : 9,000,000 円)

(2) 大学院奨学生に対する研修会の実施

大学院給付奨学生および大学院給付留学奨学生に対して、研修セミナーへの出席を義務付けている。研修セミナーは、奨学生の研究発表、各界講師による講演、懇親会を内容とし、昨年度同様2回実施する。平成19年度は内閣官房参事官補佐の鈴木英敬氏（夏期）、「かものはしプロジェクト」代表の村田早耶香氏（冬期）を講師とした。平成20年度も日本人大学院生と留学大学院生のセミナーを同時開催とし、夏期セミナーは1泊2日の合宿形態で実施する予定である。

- 20年度支出予算：（セミナー開催費）6,000,000円（奨学生の交通費を含む）
（19年度支出予算：4,000,000円）

(3) 修了式

大学院奨学生（国内及び留学生）の育英会修了生及び大学奨学生の内「成績優秀による返還免除者」に対して、その研鑽実績と今後の活躍を祝して、奨学生選考委員、主要奨学財団、関係大学関係者ほかの出席の下、「修了式及び懇親会」を平成21年3月に開催する。

- 20年度支出予算：（大学院生奨学金支出の内2,000,000円）
（大学生奨学金支出の内1,100,000円）

4. 「IKUEI NEWS」の発行

平成19年度は「夢にチャレンジする大学生」、「国際感覚の磨き方」、「大学のキャリア形成支援」、「インターンシップ」を特集テーマとした。いずれのテーマについても、専門家や大学関係者へのインタビューと大学生自身の意見や実状を取材するように努めた。

今年度も大学生のキャリア形成のあり方に焦点を絞った問題提起を大学生及び教職員に対し行っていきたい。特集記事の他にも「大学を訪ねて」、「先輩！こんにちは」、「時代はくりかえし」など人気コーナーも定着している。

主要読者層は貸与/給付中の奨学生、奨学金返還中の者、大学関係者（学長室及び学生部）、教育関係者、有力財団、全国主要図書館であり、新たに大学教員・高校関係者等を加え、配布先・配布部数を増やしていきたい。

- 20年度支出予算：（育英会会報支出）24,000,000円
（19年度支出予算：24,000,000円）

5. 大学訪問

大学訪問を開始して4年目を迎え、平成19年度は国公立ではお茶の水女子大学、筑波大学、大阪大学、北海道大学、岡山大学、島根大学、首都大学東京、私立では国際基督教大学、法政大学、慶応義塾大学、同志社大学他、合計15大学への訪問を行った。

平成20年度も、大学院奨学生制度、返還免除制度、留学奨励金制度の説明を中心に、各

大学の学生課を訪問し、大学職員から育英事業に対する要望・意見も聴取する。ヒアリングの結果は、今後の電通育英会の事業や日常業務に反映させていきたい。大学・大学院合計で15校程度訪問する予定である。

- 20年度支出予算：（大学訪問支出）800,000円
（19年度支出予算：800,000円）

6. 奨学制度研究

このプロジェクトは公益法人制度改革の動向の中、当財団の今後のあり方を探ることを目的として始めたものである。プロジェクトとしては平成18年度より開始し、平成20年度に終了する予定である。平成19年度はニューヨークとサンフランシスコにて米国のファウンデーションやNPOなど5団体を訪問しヒヤリング調査を行ったが、平成20年度はさらに有識者による研究と日本国内の財団やNPOの調査・研究も加えて最終報告書にまとめる。

- 20年度支出予算：（奨学制度研究支出）6,000,000円
（19年度支出予算：6,000,000円）

7. 大学生調査研究

平成19年11月に、大学生の生活意識、勉学の状況、課外学習、インターンシップ、サークル、社会貢献活動・奨学状況など「学生を取り巻く諸環境」について、京都大学溝上准教授の監修によりインターネットによる意識調査（約2000サンプル回収）を行った。調査結果は大学関係者、教育研究者の研究素材として供することを目的に電通育英会のホームページに掲載した。平成20年度は主に上記調査の内、大学生のキャリア形成に関わるテーマに絞った定性的な追跡調査を行う。

- 20年度支出予算：（調査研究支出6,000,000円の内4,200,000円）
（19年度支出予算：8,000,000円）

8. 大学生研究フォーラムの開催〈新規〉

上記の大学生調査の広報、更に大学生研究の深化と課題発見のため、京都大学と共催で平成20年8月に京都大学時計台ホールにて、教育学・心理学・青年若者論・労務研究等の教員、研究者及び大学生・大学院生を集めたシンポジウムを開催する。シンポジウムの構成は、現代大学生像・キャリア教育のあり方についての講演、パネルディスカッション、情報交換会を基本とし、大学関係者のみならずマスコミ等への広報を図る。

- 20年度支出予算：（大学生研究フォーラム支出）7,000,000円

9. ホームページの拡充

平成 19 年 12 月に電通育英会のホームページのリニューアルを行った。その目的は、①財団の財務情報の公開、②財団の事業やアウトプットの紹介、③インターネットを活用した奨学生の募集～選考機能の強化、④前述の大学生調査データベースの掲載などである。平成 20 年度も奨学生ばかりでなく、大学関係者・一般層の注目を集めるコンテンツの充実を図りたい。

20 年度支出予算：（システム費支出 7,700,000 円の内 3,000,000 円）

（19 年度支出予算はホームページリニューアルのため、6,000,000 円）

10. 奨学金の返還（収入予算）

平成 19 年度の返還収入は予算（8,600 万円）に対して大幅増となる見込みである。平成 20 年度も増加する返還者、返還金に対応した奨学金管理システムの改善を図り、事務処理の迅速化を図ると共に、引き続き 2 名体制で、きめ細かい返還業務を行う。

- 20 年度収入予算；（奨学金返還収入）98,000,000 円

（19 年度収入予算：86,000,000 円）